



# 基本計画





# I 『人が集う魅力ある都市』の実現

## 1. 明日を見据えた土地利用の推進

- (1) 魅力ある市街地づくり
- (2) 居住ニーズに応じた住宅・宅地の供給

## 2. 都市基盤の整備

- (1) 便利で快適な道路づくり
- (2) 利用しやすい公共交通機関の充実
- (3) 高度情報化社会への対応

## 3. 進展する地域産業

- (1) 都市近郊型農業の推進
- (2) にぎわいを築く商工業の振興
- (3) 魅力ある雇用環境づくり

## 4. 野々市の魅力づくり

- (1) 個性あるまちづくり
- (2) 観光・物産の振興と情報発信
- (3) 国内外の交流の推進

(1) 魅力ある市街地づくり

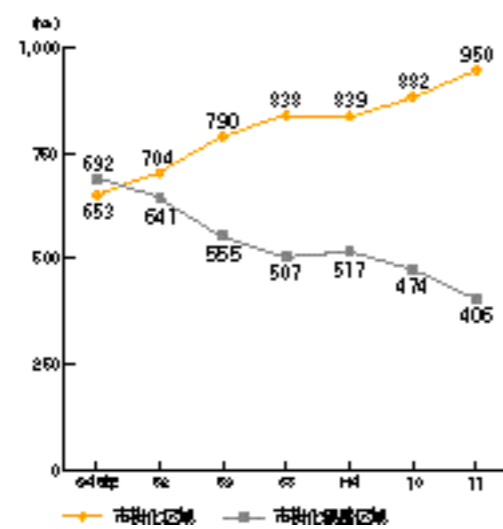
● 現状および課題

本町では、望ましい都市像の明確化と適正な都市づくりをめざし、保全と調和のとれた計画的なまちづくりを進めています。市制への移行を間近に控えている現在、良好な産業基盤の整備や快適な住環境の創出を図り、更なる都市の活性化と町民の豊かな生活の実現を進めていく必要があります。

今後は、地域を取り巻く社会情勢の変化を見据えながら、土地利用の基本方向を明らかにするとともに、適正な土地利用の誘導を図り、質の高い都市基盤整備を計画的に推進していくことが大切となります。特に、将来の都市像の実現に向けた都市機能の強化とその規制・誘導を図り、集い、ふれあう場や働く場、学ぶ場など、さまざまな機能をもつ魅力ある市街地を形成していくことが課題となります。

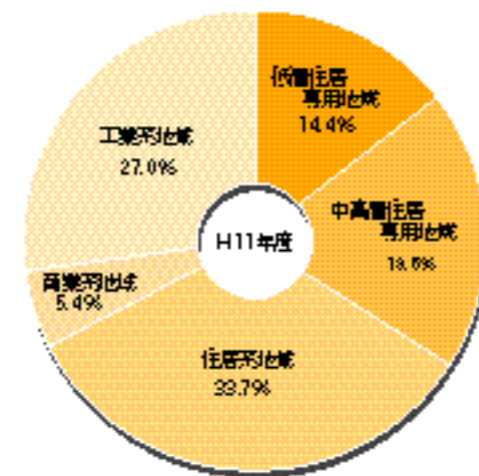
土地利用計画

資料：都市計画課



市街化区域の用途別比率

資料：都市計画課



◆ 施策の体系

魅力ある市街地づくり

- ① 都市機能の強化
- ② 土地の有効利用
- ③ 規制・誘導の推進

◆ 計画の内容

① 都市機能の強化

- 拠点ゾーン周辺の計画的土地利用の推進
- 既成市街地の再生および再構築
- 市街化区域見直しの推進
- 宅地開発などによる土地利用計画の誘導
- 幹線道路沿いの土地の有効利用

② 土地の有効利用

- 公共用地および未利用地の有効活用の検討

③ 規制・誘導の推進

- 地区計画および緑化協定などの導入
- 開発指導の推進

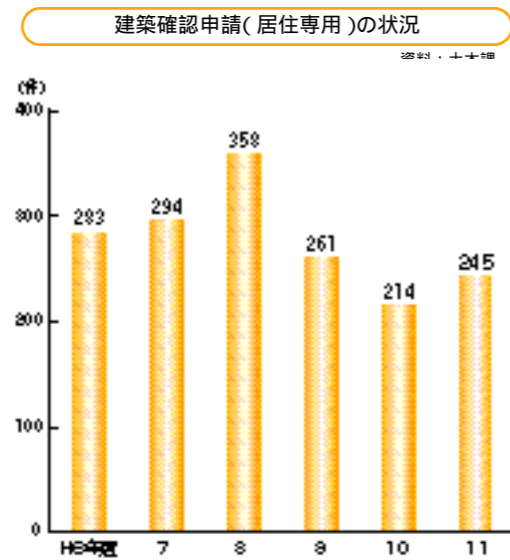


(2) 居住ニーズに応じた住宅・宅地の供給

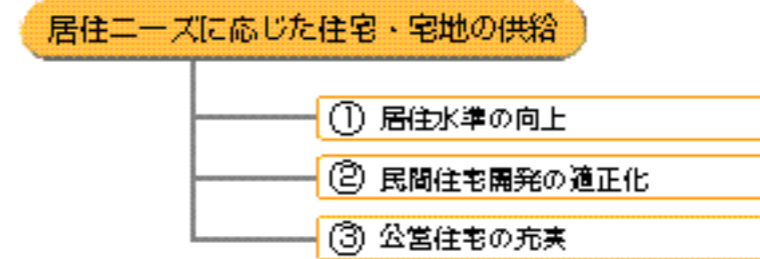
● 現状および課題

本町では、土地区画整理事業により市街地の拡大を進め、良好な住宅・宅地開発を促し、定住人口は年々増加しています。近年では、集合住宅や賃貸住宅の建設もめだっており、多様な生活様式や幅広い世代の人々が暮らせる都市へと移行しています。

継続的に住宅需要が高まっていくと予測されるとともに、居住ニーズが多様化するなか、土地区画整理事業における地区計画の導入をはじめ、一体的な住宅・宅地の整備による居住水準の高い住宅・宅地の供給を促していく必要があります。また、町営住宅については、居住ニーズや環境変化に対応した快適な住環境づくりへの取り組みが課題となっています。

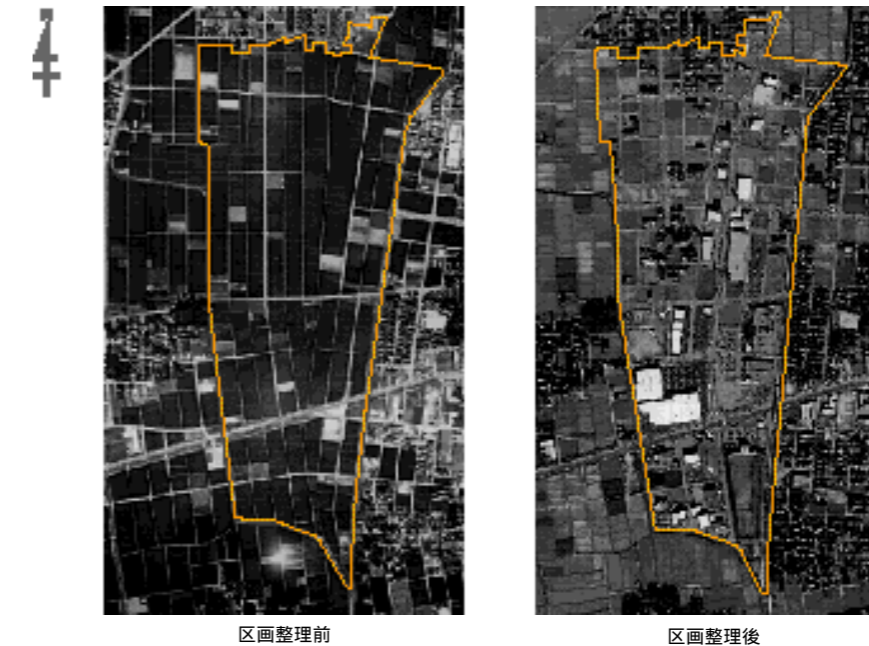


◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

- ① 居住水準の向上
  - 地区計画や建築協定の導入
  - 土地区画整理事業(扇が丘・住吉、中南部地区、西北部地区)の推進
- ② 民間住宅開発の適正化
  - 開発行為者に対する適正誘導の実施
  - 民間集合住宅建設などにかかわる行政指導の徹底
- ③ 公営住宅の充実
  - 新たな町営住宅の整備検討
  - 町営住宅(中林・栗田)の水洗化およびバリアフリー化の推進

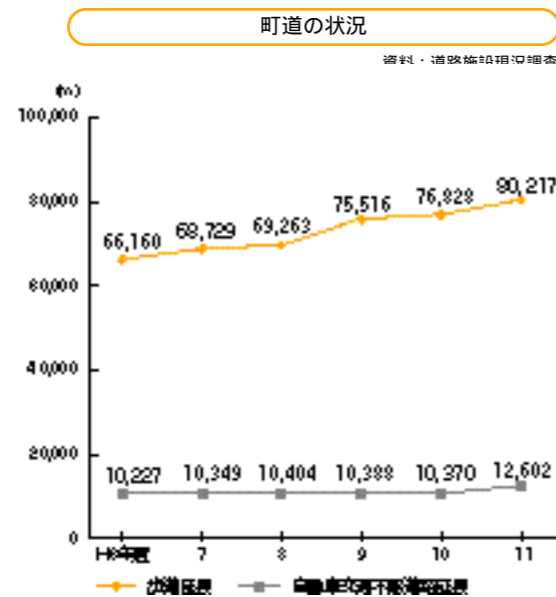


(1) 便利で快適な道路づくり

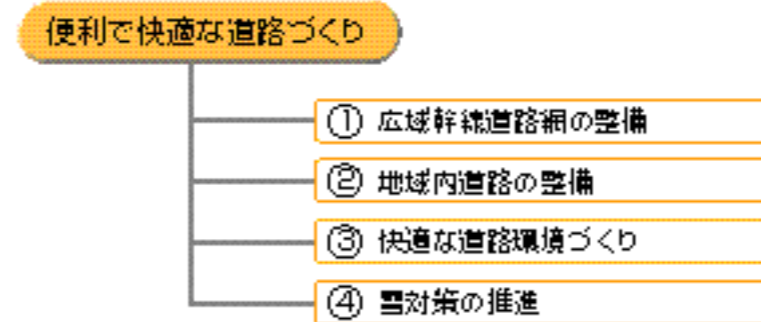
● 現状および課題

本町は、国道8号および国道157号、加賀産業道路を軸に、道路網が構成されています。道路整備が進むにつれ、幹線道路沿道には大型商業施設の出店が相次ぎ、町内外から多くの人を集客する効果をあげるほか、住民生活の利便性を高めています。一方、国道を中心に慢性的な交通渋滞が発生しており、住民の生活様式や産業形態などの変化に対応した道路網の形成が課題となります。

また、歩行者専用道路や歩道整備、緑化など、人にやさしい快適な道路環境づくりも進めており、今後はこれらの取り組みに加え、ユニバーサルデザイン思想を重視した道路づくりや快適な道路環境を住民や地域で維持する取り組みを進めていく必要があります。



◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

- ① 広域幹線道路網の整備
  - 地域高規格道路（金沢外環状道路）の建設促進
  - 国道8号・157号の整備および安全施設の建設促進
  - 一般県道の整備促進
- ② 地域内道路の整備
  - 都市計画道路網の計画的な整備（本町新庄線・高尾坂内線ほか）
  - 狭い生活道路の整備
  - 交通調査、踏査支持力調査の実施およびこれに基づく補修の実施
- ③ 快適な道路環境づくり
  - 自転車・歩行者専用道路の整備およびネットワーク化
  - 歩道の設置および既設歩道のバリアフリー化の推進
  - 計画的な緑化の推進
  - 住民や地域管理による道路里親制度の実施
- ④ 雪対策の推進
  - 消雪装置の集中管理による維持管理体制の効率化
  - 消雪路線の延伸

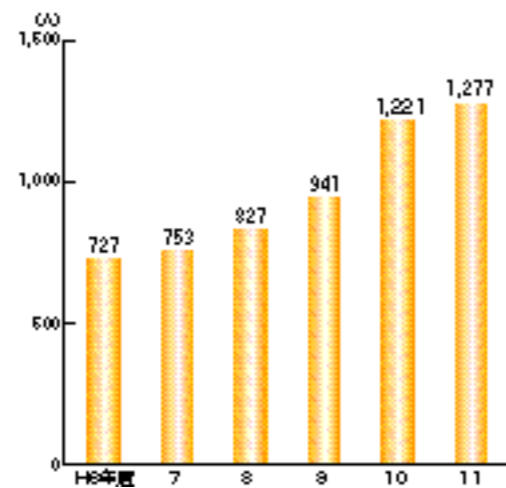
(2) 利用しやすい公共交通機関の充実

● 現状および課題

本町には、JR北陸本線と北陸鉄道石川線のほか、町域を路線バスが走行し、住民の日常的な交通手段として利用されています。特に、金沢工業大学が立地する北陸鉄道野々市工大前駅では、年間約21万人が利用していますが、鉄道やバスの利用は停滞する傾向にあります。しかし、車利用による交通渋滞や駐車場不足などの解消をはじめ、高齢社会への対応や環境問題の改善、中心市街地のにぎわい創出などにおける公共交通機関が果たす役割への期待が高まっています。

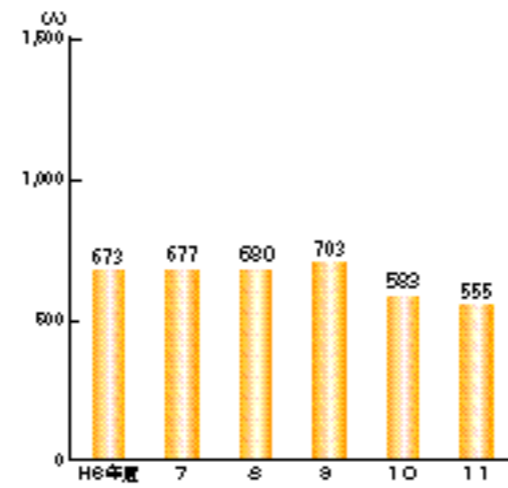
今後は、公共交通機関の充実やコミュニティバスの導入などを進め、だれもが利用しやすい条件を整えるほか、パーク・アンド・ライド（バス・鉄道）の推進による公共交通機関のサービスの向上に努める必要があります。

JR野々市駅乗車人員数(1日平均)



北陸鉄道野々市工大前駅乗降客数(1日平均)

資料：北陸鉄道(株)



◆ 施策の体系

利用しやすい公共交通機関の充実

- ① バスの利便性向上
- ② 鉄道の利便性向上

◆ 計画の内容

① バスの利便性向上

- 既存バス路線の改善要請および整備促進
- 広域的な総合交通体系の整備促進
- コミュニティバス運行の実施

② 鉄道の利便性向上

- 北陸鉄道石川線のダイヤ充実など利便性向上に向けた要請
- JR野々市駅機能の充実と周辺整備の促進
- 北陸新幹線の建設促進

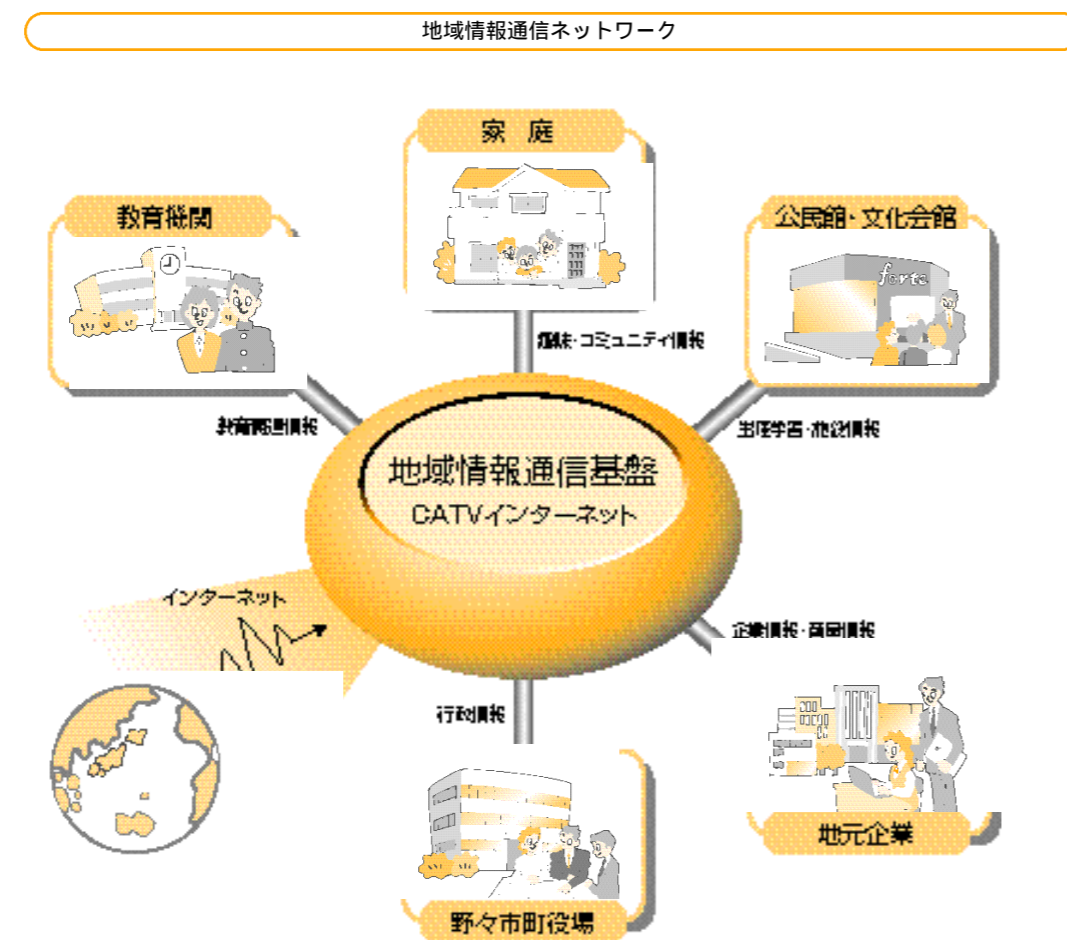


(3) 高度情報化社会への対応

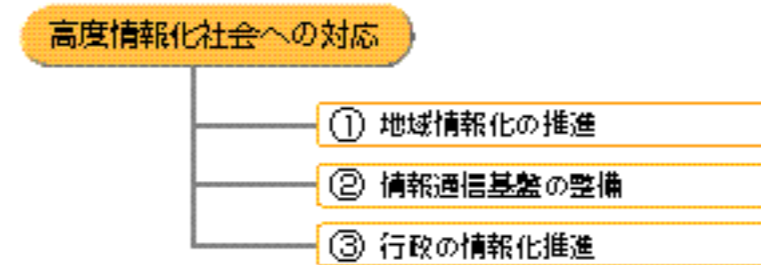
● 現状および課題

本町では地域情報化計画を策定し、全庁的な体制のもと、高度情報化社会に向けたまちづくりへの取り組みを進めつつあります。また、ホームページを活用し、住民の暮らしに身近な情報の提供から町の紹介など、幅広い情報の提供も進めています。

IT（情報通信技術）時代と言われるこれからは、地域の実情に見合った情報通信基盤を整えるとともに、この基盤を有効に活用し、住民自ら行政情報を収集し、意見交換を行うことのできる双方向性を重視した行政サービスの提供を進め、21世紀にふさわしい都市基盤の構築を進めていくことが課題となります。



◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

- ① 地域情報化の推進
  - 地域情報化計画の策定と地域情報化計画に基づく事業の推進
  - 情報通信技術を活用した行政情報提供の充実
  - 公共施設の利用案内や各種証明書等の自動発行など、情報通信技術を活用した住民サービスの向上
- ② 情報通信基盤の整備
  - 地域全体で利用できる情報通信基盤の整備
  - 国県や近隣市町村との広域情報ネットワークの構築
  - 広域との連携による新たな情報通信基盤整備に向けた検討
- ③ 行政の情報化推進
  - 行政情報化推進体制や運営管理体制の強化
  - 行政情報化の進展に合わせた保護対策の強化
  - 利用目的に応じた情報機器の充実
  - 人材の育成および情報活用能力の向上

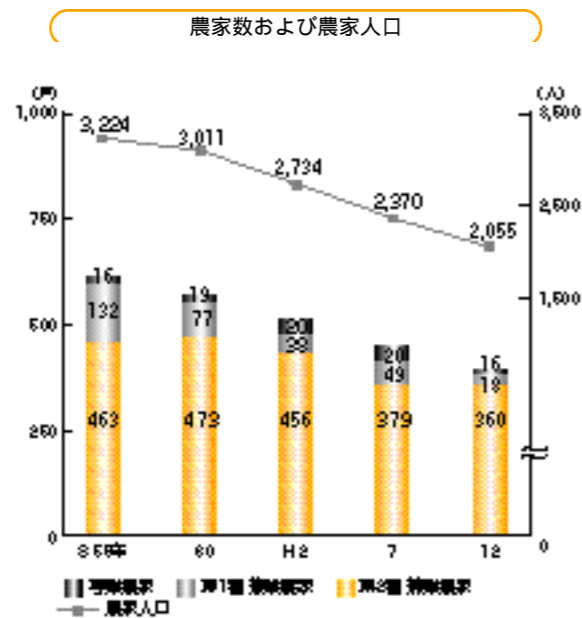
(1) 都市近郊型農業の推進

● 現状および課題

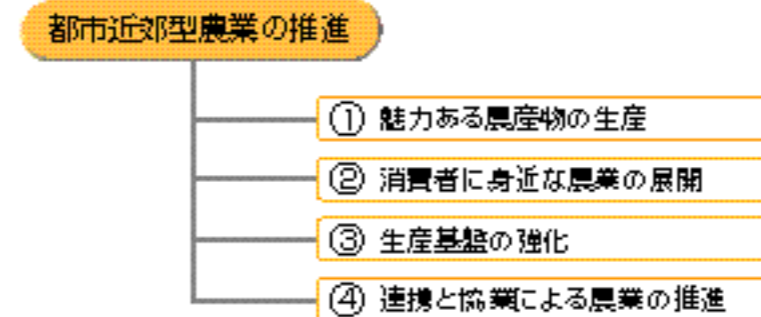
本町の農業は、稲作を中心に大豆、キウイフルーツ、花きなどを生産する兼業農家が多い状況にあります。担い手の不足や就農者の高齢化、農地の宅地転用などが進行するとともに、住宅地との混在化などが発生し、農業をとりまく環境は厳しい状況にあります。

このような中、一部の地区においては、地区農業の保全に向けた基盤整備などが進められるほか、農業生産法人や中核農家を中心に農産物の直接販売が実施されるなど、新たな農業展開への取り組みも進みつつあります。

今後は、意欲的な農業生産法人や中核農家へ土地を集積し、農作業の共同化・協業化や生産組織の法人化を促進するほか、消費者志向を重視した農産物づくりを進め、力強い農業を推進します。さらに、地域特性を活かした農業展開を促進し、魅力ある農業を実現していくことが課題となります。



◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

① 魅力ある農産物の生産

- 野菜・果樹・花きなどの生産振興と産地化の促進
- コスト低減をめざした水田農業の推進
- 環境にやさしい農産物の生産促進
- 転作田の多面的利用の促進
- 特産品づくりの奨励
- 生産技術向上に向けた営農指導の強化

② 消費者に身近な農業の展開

- 農産物加工品のイベントへの販売、普及促進
- ふれあい農園などの拡充
- 学校給食での利用促進
- 生涯学習や学校教育と連携した農業を通じた交流事業の推進

③ 生産基盤の強化

- 流動化による農地の有効利用の推進
- 有機肥料等による地力向上の推進
- 優良農地の保全

④ 連携と協業による農業の推進

- 農作業請負や機械利用などの共同化・協業化の促進
- 生産団体などの組織化および法人化促進
- 生産組織の育成強化
- 中核農家や後継者の育成
- 県立農業短期大学との連携による振興策の検討

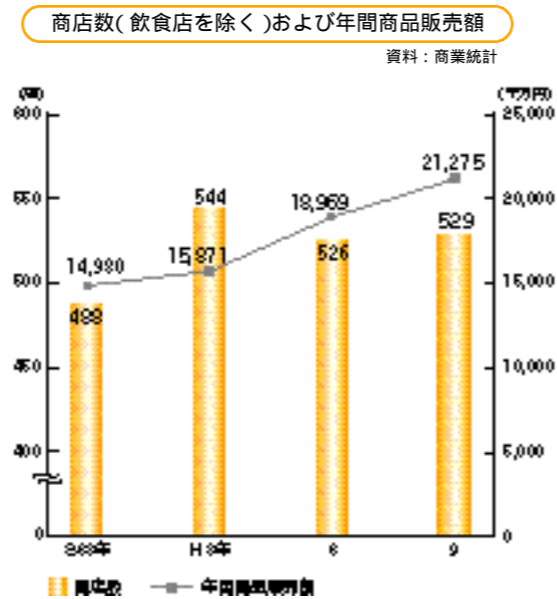
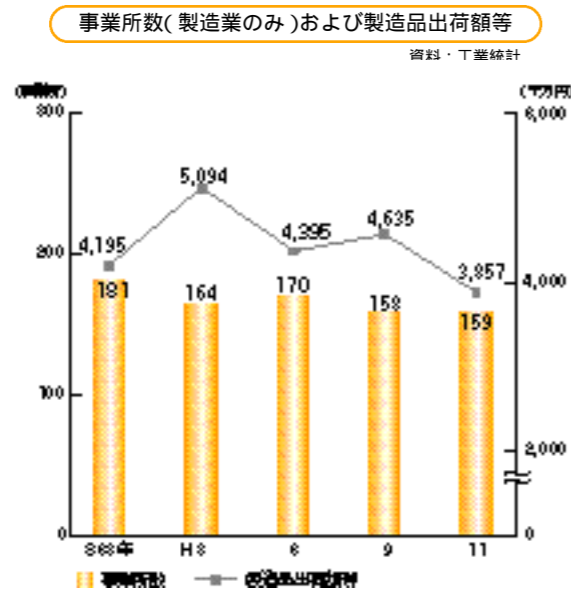


(2) にぎわいを築く商工業の振興

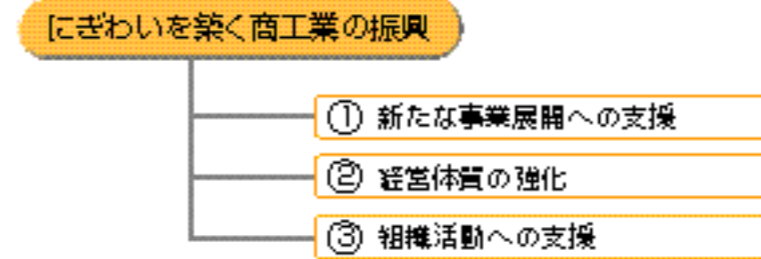
● 現状および課題

本町の商工業は、国道沿道を中心に大型商業施設の出店が続く一方、経営規模の小さい商店・事業所では、急速に進展する技術革新や大型商業施設・大型専門店の出店などを背景に、商店街の機能低下やさまざまな問題を抱えています。

新たな事業転換が進む産業界において、今後は時代や消費者ニーズなどの変化に対応できる経営基盤と新たな事業展開へ挑戦する意欲を高め、時代とともに進展する商工業を育成し、まちのにぎわいと活力を創出していく必要があります。



◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

- ① 新たな事業展開への支援
- 研究開発など、新たな事業展開への支援制度の確立
  - 産・学・官の連携による研究・事業展開の促進
  - 異業種間交流の促進
- ② 経営体質の強化
- 高齢社会に対応した新たな事業展開や店舗改装などへの支援
  - 情報通信技術導入による経営合理化の促進
  - 各種経営研究、講座などの定期的開催
  - 各種融資制度や補助金制度などの周知および活用促進
- ③ 組織活動への支援
- 環境や景観に配慮した活動の促進
  - 共同化・協業化による活動や事業展開への支援
  - 新たな組織化への支援
  - 団体活動の育成および活動への支援

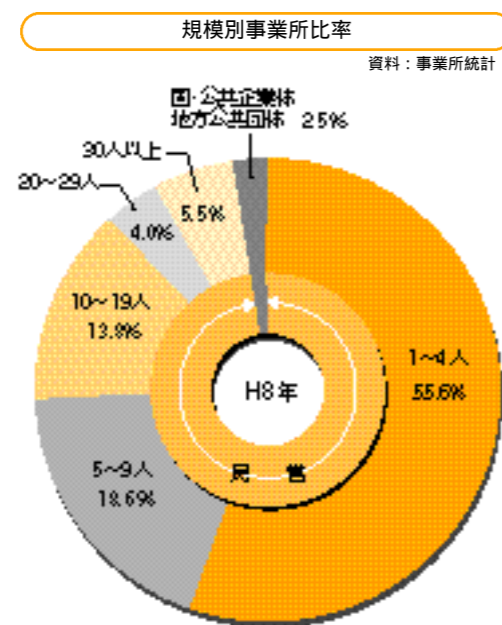


(3) 魅力ある雇用環境づくり

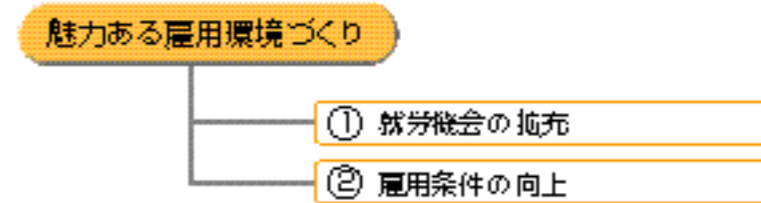
● 現状および課題

産業構造の転換期にある現在、就労機会の不足が生じる一方、中小企業においては環境の変化に対応した雇用環境の整備が遅れ、安定した人材確保が困難な状況にあります。特に、男女共同参画をめざした雇用環境づくりや高齢者が従事できる就労機会の提供などを進めるとともに、多様化する就労ニーズに対応した企業へと進展していく必要があります。

さらに、高度情報化が進む現在、雇用ニーズに適した人材不足なども問題となっており、時代要請に応じた技術などの習得も必要となっています。



◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

① 就労機会の拡充

- 男女雇用機会均等の調査、啓発指導の強化
- 定期的な就職情報の提供と相談・あっ旋
- 育児休業期間における資金融資制度の周知および活用促進
- 高齢者雇用の促進

② 雇用条件の向上

- 福利厚生施策への支援体制の確立
- 研修・福利厚生などの融資・助成制度の充実
- 労働時間短縮の促進
- 男女共同参画社会における雇用改善の促進
- セミナーや広報などを通じた法律や制度の周知



(1) 個性あるまちづくり

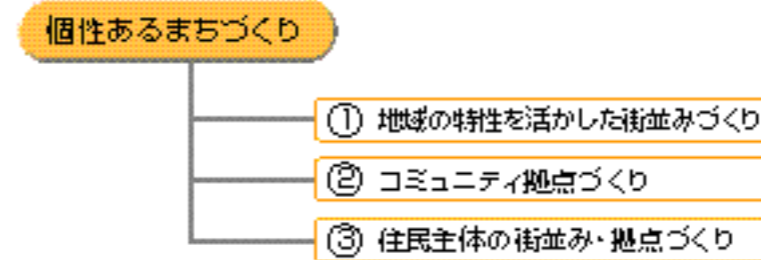
● 現状および課題

金沢市と松任市に隣接する本町は、住宅開発や道路整備が進むほか、商業施設も数多く立地するなど、住む場として恵まれた立地環境にあります。しかし、一方では流動人口が激しく、休日と夜間のみ町内に在住している住民がめだつことも起因して、本町独自の魅力や個性が感じられにくくなっています。

住む場としてだけでなく、働く場・楽しむ場など、さまざまな目的で多くの人が集まり、まちへの活力とにぎわいをもたらし、新たな産業が芽生える可能性や住む場としての付加価値をより一層高めることが今後の課題となります。特に、北国街道の街並みなど、先人から伝わる資源を活用し、現代的な暮らしと伝統的な趣が共存する独自の魅力づくりをめざし、特性を活かしたまちづくりを進めていく必要があります。



◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

- ① 地域の特性を活かした街並みづくり
  - 歴史的資源を活かした街並みづくり
  - 教育・文化施設を活かしたまちづくり
  - 歩行者優先の道づくりによるまちづくり
- ② コミュニティ拠点づくり
  - 新庁舎およびその周辺における住民が集える環境づくり
  - 既存市街地のコミュニティ機能の充実
- ③ 住民主体の街並み・拠点づくり
  - 住民自らが考え行動するまちづくりへの誘導
  - アンケートなどによる住民意見の反映



(2) 観光・物産の振興と情報発信

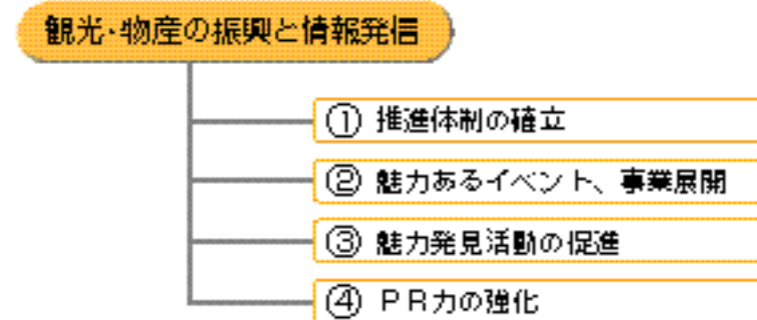
● 現状および課題

本町は、商工会を中心に地域に伝わる伝統行事やイベントを開催するほか、特産品の開発・販売などを進め、特色ある魅力づくりと集客力の向上に努めてきました。特に、野々市じょんからまつりは年齢を問わず、多くの住民が参加するとともに、町外からも多くの人を集めるイベントへと発展しています。また、ホームページなどを活用したイベントや特産品、まちの歴史・文化などの紹介を行い、地域の情報を町外にも発信しています。

今後は、既存のイベントや事業を定期的に見直すとともに、地域が一体的に取り組む体制を整え、町内に多くの人々を引き寄せる原動力をより一層強めていくことが重要となります。



◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

- ① 推進体制の確立
  - 商工会や各種団体との連携によるのいち魅力向上推進体制の強化
- ② 魅力あるイベント、事業展開
  - 野々市じょんからまつりや各行事の見直しによる集客力の強化
  - 伝統行事の後継者育成
  - 文化会館の運営体制強化による魅力ある事業づくり
- ③ 魅力発見活動の促進
  - 関係機関の連携による新たな事業活動の促進
  - 新たな特産品開発の促進・地場産業振興に向けた物産館の設置検討
  - 地域特性や歴史を活かし、新たなイベント開発に向けた調査
- ④ PR力の強化
  - インターネットなどの情報通信技術を活用した情報提供の促進
  - 関係自治体や関係機関と連携したPR活動の推進
  - 特産品の販路開拓への支援

(3) 国内外の交流の推進

● 現状と課題

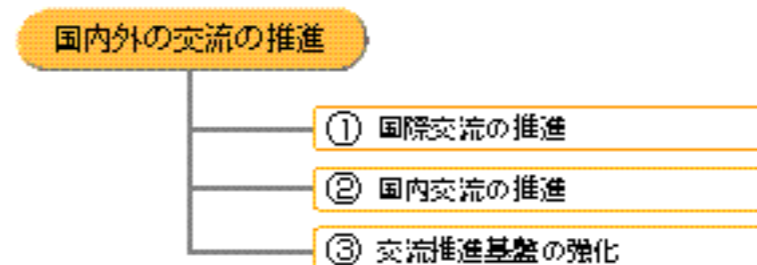
本町では、平成2年にニュージーランド・ギズボーン市と姉妹都市提携を結んだほか、中国・深圳小学校との教育間交流を進め、国際理解の向上と住民同士の交流に努めています。現在では、国際友好親善協会の会員は個人・団体合わせ100会員を越えるまでに発展しています。

また、国内においては、出身者で構成する東京・関西の野々市会が組織されており、町外からふるさとを支援する活動が進められています。

今後は、国内外の交流による新たな事業展開を模索しながら、交流推進基盤の充実と強化を図る必要があります。



◆ 施策の体系



◆ 計画の内容

- ① 国際交流の推進
  - 姉妹都市ギズボーン市との多様な交流の模索
  - 中国・深圳小学校との交流の推進
  - 町内外外国人留学生との交流機会の拡大
- ② 国内交流の推進
  - 新たな国内市町村との友好都市交流
  - 「じよんから」をはじめ、「富樫氏」、「猪」等を媒体とした交流の推進
  - 東京・関西野々市会との交流の充実
  - 民間における国内交流への支援
- ③ 交流推進基盤の強化
  - 国際友好親善組織の基盤の強化
  - 国際感覚を持った青少年の育成
  - ホームステイ登録制度の創設
  - 外国人に配慮した環境づくりの推進